

花を見るとき、その大地も見ろ

副校長 細井 宏一

5年箱根移動教室の「フリータイム学習」では「火山・植物グループ」があります。初めてお聞きなされた方は、「火山と植物が一緒のグループになるの？」と不思議に思われたかもしれません。私も最初はそう思いました。植物と火山とは密接な関係があるのです。

このグループの講師は蛭子先生という方で、本校はもう16年間もお世話になっています。ご年齢は「80才に近くなってきた」ということでしたが、まだまだお元気で、山の中もしっかり歩かれ、タブレットパソコンも使いこなされます。「箱根の自然を守る会」の中心となってご活躍されている方で、現地スタッフを指導する立場にもある、たいへん見識の深いすばらしい先生です。

毎年、フリータイムの前日夜に、私たちが宿泊するホテルお越しになり、夕食を一緒にいただいています。いつも興味深いお話を聞くことができ、私は楽しみにしています。今年もお会いした早々、宿泊ホテルのすぐ近くでたいへん珍しい「ササバギンラン」という花を発見したとって写真を見せて紹介してくださいました。火山・植物グループの児童は、フリータイム時に見に行っています。私も興味をもったので、空いている時間に写真を撮ってきました。



蛭子先生は、以前は箱根自然観光ツアーでガイドをやっていたこともあるそうですが、辞めたそうです。それは、ツアーで来る方は、自然や植物のことについては結局はあまり関心がなく、お土産やおいしい食べ物に気がいきがちで、また、ツアーの方に珍しい植物を紹介すると、採取されて無くなってしまふのだそうです。「その場に行ってその場に咲いている花を見るからよいのである」と力説されていました。そして、「子どもたちには、自然の素晴らしさを直に感じ、現地でしか味わえない貴重な体験をたくさんしてほしい。」と、本校のフリータイム学習の講師を続けてくださっています。

以前、蛭子先生と子育ての話になったことがあります。とても印象的でした。

「花が咲いているとする。すると多くの方は、その花がきれいだとか何色だとか、その花ばかりを見てしまう。でも本当は、その大地も見たい。花に養分を与えている葉・茎があり、土に根を張り、そして大地の上に生きている。箱根の大地は火山から出た溶岩の上にある。山の形、海からの距離、風の流れ等、時には厳しい環境もあって、そしてそこにその花が咲いているのである。花を大切にすれば、その花だけを見るのではなく、その大地・環境はどうなのか視野を広くみていくことが重要である。狭い見方・考え方は、「採取して家で育てよう」といったインスタント的な考え方になる。

子育ても同じである。保護者の中には、子どもの表面的な姿だけを見て、ああだこうだという人が多すぎる。我が子でも、他の子に対しても。どうしてその子がそう育っているのか、その背景・環境はどうか、周りの人との関わりはどうかと、視野を広くもって、学級・学校全体がよくなっていくためにどうあるべきか、将来的にどうかも考えることが大事である。狭い情報から大きな声を出す人が多すぎる。一時の感情や一面だけで、早まった行動をしてはならない。」

子育てのことは、花を守ることと必ずしもすべて一致するものではないと思いますが、蛭子先生のお話は、私たち教育をする立場の者にとって、大きな示唆を与えてくれていると思います。「世界に一つだけの花」という歌がありました。子どもたちを花にたとえるなら、どの子も美しく花が咲かせられるように、時には困難があっても、うまく付き合っ、様々なものとの関わりを大切にして、育てていかなくてはならないのだろうと感じています。